

# 編集趣意書

(教育基本法との対照表)

*受理番号	学校	教科	種目	学年
27-108	高等学校	外国語	英語表現 I	
*発行者の番号・略称	*教科書の記号・番号	*教科書名		
205 三友	英 I 338	ECHO English Expression I		

## 1、編集の主旨及び留意点

「英語表現 I」の教科書は、「聞くこと」「読むこと」を通して得た情報や知識を「話すこと」「書くこと」に結びつけて発信することを目標とする。従って本書では次の点に留意した。

- 1 教材内容や言語活動を工夫することによって、生徒が積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
- 2 そのために多様な言語の使用場面を用意し、家庭・地域・学校など身近な話題から、外国語を用いて国際理解や環境問題などの教材を配する。
- 3 目的を持って「書く」「話す」の言語活動ができるような場面を設定し、言語の働きを実際に体験しながら学んでモチベーションを高めるよう配慮する。
- 4 各課とも「聞く」「読む」活動で始め、それが「書く」「話す」活動に繋がるよう工夫する。

## 2、編集の基本方針

- 1 基本となる 21 の Lesson で、基礎となる文法をコミュニケーションを支えるものとして「書く」「話す」活動に結びつけ、文法を言語活動と一体となるよう編集する。
- 2 自己表現力、思考力、判断力など「生きる力」に結びつくよう、教材内容を、自分や家族、学校や地域、そして日本と国際社会の順に配置し、認識が世界に広がって行くようにする。
- 3 母語である日本語との比較や対照を通じて、外国語への理解と認識を深めるように、Warm-up や練習問題を工夫する。
- 4 即興で話したり、簡潔に書くことができるように、ペアワークやグループ・クラス発表の活動を多く取り入れる。Show & Tell やプレゼンテーションも経験できるようにする。
- 5 一定にまとまった情報や考えを伝える能力を養うために、Paragraph Writing や Let's Act in Class の中で、時系列でのまとめ、原因と結果の表現、意見や理由のまとめ方を学べるようにする。
- 6 単なる暗記ではなく、言語活動を通じて語彙を習得できるよう Word Square を適宜配置し、生徒たちが使って身につけられるようにする。

<b>3、対照表</b>		
<b>教育基本法第2条</b>	<b>特に意を用いた点や特色</b>	<b>箇所</b>
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	外国語という特質を活かして世界の地理・歴史・異文化・言語・人権・平和・環境などについての教材を配して学習者が知識と教養を身につけられるようにした。具体的にはチャップリン・言語の多様性・韓国の習慣・敬称・世界の統計を取り上げた。	L14, 15, 16, 17, 18,
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと	学習者が自己や家族の生活を見つめ、職業や勤労を重んずる態度を育めるように教材を置した。その中で家族の労働を考え、将来への夢を持たせるようにした。	L1, 2, 3, 4, 5
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと	社会の形成に参画し寄与する態度を養うために、花火大会やフリーマーケットなど地域での行事、国際協力、マザーテレサなどの教材を取り上げた。	PR テレサ, 障害者, 8, 9, 6, 7
第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	国際的な喫煙問題、戦争と人権の問題、沖縄のやんばるやオーストラリアの自然環境等を取り上げた。	L13, 19 PR 韓国人 LA1 LA2
第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	伝統行事として七夕とお月見を、宿場町の歴史文化、国際社会との関係も含め日本のアニメ文化を取り上げた。	L9, 10, 11, 12
<b>4、上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色</b>		
<p>1 Skill Up や Vitamin のページを通じてリズムやイントネーション、話す態度や声の大きさに注意するよう配慮した。</p> <p>2 Paragraph Writing Skill や Let' s Act in Class のページでは、一定にまとまった内容を効果的に表現するための基本的な英語表現を扱った。</p> <p>3 Paragraph Writing Skill や Let' s Act in Class のページでは、意見の共通点や違いを整理したり、自分の考えをまとめるための基本的な活動を扱った。</p>		

# 編集趣意書

(学習指導要領との対照表、配当字数表)

*受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-108	高等学校	外国語	英語表現 I	
*発行者の番号・略称	*教科書の記号・番号	*教科書名		
205 三友	英 I 338	ECHO English Expression I		

## 1、編集上特に意を用いた点や特色

- 「聞くこと」「読むこと」を、基礎となる文法をコミュニケーションを支えるものとして「書く」「話す」活動に結びつけ、文法を言語活動と一体となるよう編集した。
- 自己表現力、思考力、判断力など「生きる力」に結びつくよう、教材内容を、自分や家族、学校や地域、そして日本と国際社会の順に配置し、認識が世界に広がって行くようにした。
- 母語である日本語との比較や対照を通じて、外国語への理解と認識を深めるように、Warm-up や練習問題を工夫した。
- 即興で話したり、簡潔に書くことができるように、ペアワークやグループ・クラス発表の活動を多く取り入れた。Show & Tell やプレゼンテーションも経験できるようにした。
- 一定にまとまった情報や考えを伝える能力を養うために、Paragraph Writing や Let's Act in Class の中で、時系列でのまとめ、原因と結果の表現、意見や理由のまとめ方を学べるようにした。
- 単なる暗記ではなく、言語活動を通じて語彙を習得できるよう Word Square を適宜配置し、生徒たちが使って身につけられるようにした。

## 2、対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	箇所	配当時間
Warm-up 1～3 Kenta bit the dog. Mr. Mori is a good English Teacher I drink coffee every morning.	総説「改訂の趣旨」アの5点目、英語表現 I 「内容の取り扱い」(3)に基づいて、中学校での学習が十分でない生徒も高校の学習についていけるよう配慮した。英語と日本語の語順、会話に欠かせない疑問文と答え方、語義が1対1の対応でないことを学べるようにした。	頁 行目 6～10 頁	3
Lesson 1～3 自分と家族 Nice to meet you. Let me talk about my family. The nurses smiles made me happy.	「目標」に基づき、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成のために、まず自分・家族・身の回りの人たちについて表現し、学校・地域・日本・世界の順に表現できることを意図した。特に「世界」のレベルでは論理の展開や表現の方法を様々な例示した。また、「話す」「書く」自己表現を適切に行うために文法を学ぶ Grammar, 語彙を学ぶ Word Square のコーナーを設けた。	頁 行目 14～19 頁 配当時間	L1…2 L2…2 L3…2
Lesson 4～6 学校・友だち I'd like to know more about the school. I belong to the Kendo Club. Thank you for your script.  英作文の公式		22～27 頁  28 頁	L4…2 L5…2 L6…2  英作…1

<p>Lesson 7～9 地域 Let's enjoy fireworks. I opened a shop at a flea market. Our town is famous for its historic buildings.</p> <p>Lesson 10～12 日本紹介 How about writing your wishes? Isn't it lovely to watch the full moon? What do you think about anime in Japan?</p> <p>Lesson 13～15 世界(1) Stop smoking. Make this life free and beautiful. Language is culture.</p> <p>Lesson 16～19 世界(2) Manners are different from country to country. We can be better friends. If the world were a village of 100 people. Think Globally, Act Locally.</p>	<p>「内容」(1)の場面として友人との自己紹介、家族の紹介、将来の夢の発表、大学の案内、お礼のメール、広報誌など多様な場面を設定した。 アについては、主にペアワークで自分のことを話す場面を作るよう意図した。 イについては、モデル文で多様な目的の文章を例示し、それにしたがって表現できる活動を用意した。 ウのように、グループやクラス発表を行うこともできるようにした。 「内容の取り扱い」(1)～(3)に基づき、Let's Write!, Let's Speak!で、自己表現の活動を有効に行い、「聞くこと」「書くこと」と有機的に結びつけ、中学校の学習内容を定着させることができるように配慮した。</p>	<p>40～45 頁</p> <p>48～53 頁</p> <p>56～61 頁</p> <p>72～79 頁</p>	<p>L7…2 L8…2 L9…2</p> <p>L10…2 L11…2 L12…2</p> <p>L13…2 L14…2 L15…2</p> <p>L16…2 L17…2 L18…2 L19…2</p>
<p>Paragraph Writing Skill 1～3</p>	<p>内容(1)イに基づき、時間の経過、原因と結果、意見とその理由を明確にし、書くことを経験させるよう配慮した。また内容(2)のイに基づき、内容の要点やつながりを示す表現を学べるよう配慮した。「内容の取り扱い」(2)にあるように「聞く」ことと有機的に関連させた。</p>	<p>頁 行目 30～32 頁 64～66 頁 80～82 頁</p>	<p>PWS1…3 PWS2…3 PWS3…3</p>
<p>Let's Act in Class 1～2</p>	<p>内容(2)アに基づき、Skill Upでのリズムやイントネーションを学べるようにした。またウに基づき、Key ExpressionsやLet's Actで発表の仕方や表現を学ぶ教材を用意した。「内容の取り扱い」(2)にあるように「聞く」ことと有機的に関連させた。</p>	<p>頁 行目 33～36 頁 67～70 頁</p>	<p>LAiC1 …4 LAiC2 …4</p>
<p>Vitamin A,B</p>	<p>内容(2)ウに基づき、Show &amp; Tell, Presentationを通じて実際に発表の仕方や態度を身につけられるようにした。</p>	<p>頁 行目 29 頁 83 頁</p>	<p>VA…3 VB…3</p>